



電線1本引けば数百キロでもモールス通信や電話が可能になった。16世紀の銃はアジアの鍛冶屋がいとも簡単に複製したが、そう簡単には製作できない機関銃が登場した。軍艦は木造ではなく装甲を施した鋼鉄製となった。マラリアの特効薬キニーネ（後に合成に成功）が作られた、など枚挙にいとまがない。

②植民地に資本を輸出するための条件を整えること。

その投資は、工場にとどまらず、長大な【21: \_\_\_\_\_】、大規模な【22: \_\_\_\_\_】や【23: \_\_\_\_\_】であることも多い。その形態も様々で、植民地政府に**借款**を与えて建設させる形式をとる場合さえある。

③金融資本にとって最大のリスクは、植民地における暴動、革命などで投資家や企業の財産が奪われたり破壊されたりすることである。このようなことが起きないように万全の保障を行うこと。すなわち、植民地の「政治的な安定」をはかるため、あらゆる手段を講じること。【24: \_\_\_\_\_】の常駐は常識である！

たとえば、1917年、フランスはロシアに投下した莫大な資本を革命で失った。

1970年、チリに議会制のもとで社会主義社会を実現することを目指した世界で初めての政府、アジェンデ政権が成立し、アメリカ資本による現地企業を遠慮無く国有化した（1973.9.11 ニクソン政権が仕組んだ軍事クーデタで倒された）。

④膨大な軍事費の負担と徴兵に苦しむ自国民には、あらゆるメディアを動員して歪んだ【25: \_\_\_\_\_】を鼓吹し、例えば反ユダヤ主義をあおったりして、自分たちは優秀な民族、国民であり前記①②③のようなことは当然で、それらは支配されている地域と人民にとっても利益があるのだと宣伝すること。これによって大衆運動の矛先が金融資本とその利益に奉仕する政府に向かないようにする。

また、国内の、**労働運動、農民運動、社会主義運動、女性解放運動**など活発化する大衆運動に対しては、従来の弾圧政策だけでなく、ある程度譲歩して【26: \_\_\_\_\_】によって労働大衆を体制内に組み込む方策をとること。イギリスなどでは賃金水準もある程度向上した。

7) 植民地の形態は、明確に植民地とする他に、条約によって外交権を奪い取って【27: \_\_\_\_\_】にしたり、外交・軍事面でそれに近い強い束縛を課したり、あるいは、領土の一部を【28: \_\_\_\_\_】して権益を確保したりした。

たとえば、アメリカ=スペイン戦争後のパリ条約（1898）で、キューバ独立は認められたが、1902年制定のキューバ憲法にはアメリカのキューバへの干渉権、海軍基地の設置、キューバの他国との条約や借款の制限などを認めた事項がアメリカの指示によって書き加えられた。この条項をプラット条項と言う。プラット条項は1934年に廃止された。

8) 1890年代、発達した資本主義諸国は、**帝国主義**の段階に達した。帝国主義列強間にも巨大な格差があり、工業力・資本力のあるイギリス・フランス・ドイツは上位に、民族問題を抱えるロシア・オーストリアや工業化の遅れたイタリアは下位に位置づけられた。急速に工業化した日本は下位から上位に食い込もうとしていた。帝国主義諸国の生命線となる植民地を争奪する戦争は必然であり、世界は戦争の世紀、20世紀に突入していく。植民地とされた国や地域では、本国の支配、自国の支配体制と戦う【29: \_\_\_\_\_】が高まり、帝国主義本国では酷使された労働者が激しい**労働運動**を展開した。

## 帝国主義に関する研究

1) 帝国主義に関する研究で、ジョン・アトキンソン・【30: \_\_\_\_\_】 John Atkinson Hobson イギリス 1858-1940 を無視することは許されまいだろう。07M 10W 彼は、南アフリカ戦争に反対し、1902年に『帝国主義論』を著し、特権階級の過剰貯蓄と労働者を主とする人々の過少消費としてあらわれる富の不公平な分配を強調した。これは、過剰生産と景気変動の説明としてケインズに継承され、後に「有効需要」の概念に発展した。F. ローズヴェルトのニューディール政策にも影響を与えたとする説もある。また、帝国主義の経済的動因を、過剰生産による資本の蓄積とその投資先を植民地に求めることであると指摘、「投資のための有利な市場の獲得」をめざす帝国主義は、一般国民の利益にならないと結論づけた。彼は社会主義者ではなかったが、この分析は、社会主義の立場をとる学者たちに受け入れられ、ヒルファーディングの『金融資本論』（1910）、ローザ・ルクセンブルクの『資本蓄積論』（1913）、レーニンの『資本主義の最高の段階としての帝国主義』（1917）などの著作に影響を与えている。まさに、帝国主義の科学的研究の偉大な先駆者である。その主張は当時としては大変ラディカルで、故に大学講師の職を失い、週刊誌に寄稿した。晩年にいたって、マンチェスター大学から名誉博士号を与えられてはいるが、力と権威ある筋からは冷遇された人生だった。

2) 革命家【31: \_\_\_\_\_】は経済学者でもあり、亡命先のスイスで執筆した『【32: \_\_\_\_\_】』（1916、刊行時の正式書名は『資本主義の最高の段階としての帝国主義（平易な概説）』）において、帝国主義を次のように定義している。なお、前述のホブソンの名著『帝国主義論』はレーニンの著書の略称と同じになるが、もちろん別の著作。

①**独占資本主義**の段階に達している。

②金融資本が成立し、**金融寡頭制**が成立している。

③**資本を輸出する**。

④資本家の独占団体による世界の分割が完了し、資本の力に応じた再分配をしつつある。

⑤資本主義列強による世界の分割が完了し、**軍事、経済、政治的力関係による再分割**を行いつつある。

⑥従って**帝国主義諸国間の戦争は不可避**であり、軍備拡張と思想政策が実施される。

⑦植民地や従属国における**民族解放闘争は不可避**である。

レーニンの主張の最大の特徴は「帝国主義とは資本主義の特殊な段階である。」と述べ、帝国主義を資本主義の最高の発展段階、社会主義革命の準備段階と歴史的に位置づけたことである。帝国主義とは「生きながら腐朽せる体制」であり、社会主義にとって代わらざるをえないという予言的記述は現実のものとはならなかったが、帝国主義についての分析は大きな説得力があり、今日も影響力を持ち続けている。

レーニンの名言は、「不平等な経済的・政治的發展は資本主義の絶対的法則である」。